

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会	代表者	吉田 進	法人・ 事業所 の特徴	法人理念：すべての住民のところが輝く福祉のまちづくり 支援が必要になった時でも、住み慣れた自宅や地域の中で家族や親しい人たちと共に その人らしい生活が送れるように「通い」「訪問」「宿泊」のサービスを一つの事業所で 一括提供し、自宅での生活を支えるサービスを行っている。
事業所名	小規模多機能ホーム だんない	管理者	太田 えり子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他(課長、部長)	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	1人	3人	2人	11人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	事業所のあり方について、職員会議で半期に一度(9月、3月)は、必ず職員一人一人が意見を述べる場を持つ。 事業所の改善計画を常に目のつく事務所内に掲示し、日頃から意識して行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発言しにくい職員もいるが、少人数でグループワーク等をするとう発言できる。しかし、事業所のあり方について意見を述べる機会はあまり作れなかった。 ・毎日の朝礼で各職員が支援に対する意見を言う事、毎月の職員会議でのモニタリングで、利用者の情報を共有して支援に繋げている。 ・改善計画は目に付くところに掲示していたが、常に全員がしっかり見て確認していたとは言えない。 ・各々の利用者担当の職員がいる事で、細かいことまで気づけ、日々の会話を記録に残す事で情報収集し、共有出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務についての意識づけは達成しているが、地域を巻き込む、地域の資源を活かすことに関しては、もう少しハードルを下げた方が良いのではないかと。 ・利用者が生活している地域において、知名度を上げる。知り合いになってお互いに連携できるようにしたら良い。 ・出向いて顔なじみになって、そこから広げていく。 ・沢山のことを目標にするのではなく、ひとつずつクリア出来るように目標を立てた方が良い。 ・リスクマネジメントについて、その結果、どのように対策をしたか記入すること。どうしていくのか共有して、質の向上につなげていく。 ・目標を持って、全職員が何らかで参加して話し合えたのは良い。 ・事業所の評価が自分の評価になっている。全職員への意識づけが不十分 ・評価することによって新たな課題が見えてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひやりはっと事故報告について改善策を導き出し、共有して記録に残す。 ・サービス評価を事業所の評価と捉え、全職員が意識して業務に取り組む。 ・引き続き、改善計画は事務所に掲示する。

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>引き続き、職員全員が日々に整理整頓を行い、居心地の良い環境作りに取り組む。 「認知症安心サポート相談窓口」の看板を、だんない入り口植え込みのところに、常時設置する。</p>	<p>職員は日々整理整頓を行った。 相談窓口の看板を入り口植え込みに設置したが、それによる問い合わせなどはなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だんないからの情報は通信やお知らせなどを地域の回覧版で回しているの、地域の中での知名度はある。 ・事業所の環境は住宅地の中にあり、悪くないし、地域に溶け込んでいると思われる。 ・看板について、あまり目立っていない。人の目に入るには、人の目線より高いところにする方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、職員全員が整理整頓を行い、居心地の良い環境づくりに取り組む。 ・だんないでのイベントを企画した時には、回覧板で地域の皆様にお知らせし、事業所に地域の皆様が入りやすいように働きかける。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>だんない通信を地域の回覧板で回してもらい、地域住民にだんないでの取り組みを知って頂くようにする。通信の中で行事、防災訓練等を地域住民と協力できるようにお知らせすると同時に気軽に相談できる場所であることをアピールする。</p>	<p>近所の住民から「だんない通信を見た。」等との声を聞くことが出来た。 地域の運動会に参加することが出来た。 民生児童委員による絵手紙教室、はとぼっぽ通信等で来所交流が出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども 110 番ということに加えて、子供達にも居場所がわかっている。 ・地域の行事（運動会）などに参加出来ている。 ・だんない通信が回覧されるので、地域住民には知られている。 ・涼やかスポット等では地域住民、子供たちが訪れている。 ・防災訓練、講習は、事業所からお知らせし、地域の公民館を借りて、消防署の講習を受講することができた。 ・夕方から地域住民と救命救急の講習会ができるのではないかと。年に1回は講習会をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、だんない通信を地域の回覧板で回して、地域住民にだんないでの取り組みをアピールする。 ・涼やかスポットや事業所の行事について、事業所から地域住民にお知らせし、交流の場を増やすことで関係性を築く。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>生活の中で、地域の資源（病院、買い物、美容院、食事）を活かした暮らしが出来るように、また、他職種と連携しながら、工夫して支援する。</p>	<p>日々の関わりの中で、情報を収集できた。 地域と連携し、個々のサービスに反映している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に個別で出かけるなどは、小規模多機能のメリットである。 ・ご利用者在住の民生委員と連携している。 ・南丹市は広い ・その人の生活習慣に乗っ取って支援する。 ・その人が地域で暮らす力を奪わないようにすること。 ・一人暮らしのつどいに出掛けるのも良いのではないか。 ・全部をだんないで支援してしまうと、その人の地域で出来ることをうばうことになりかねない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の住んでいる地域（日吉町、園部町、八木町）の情報を収集し、積極的に行事やイベントに参加する。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議録を運営推進委員に必ず配布する。 運営推進会議開催後は職員会議で意見内容について話し合い、協議し改善に努める。</p>	<p>運営推進会議録を配布することで、委員の方に「振り返って確認出来る」と言って頂けた。 涼やかスポット、救命講習会等を企画して、地域住民との交流をはかることが出来た。 運営推進会議で出た意見を職員会議で反映し、事業改善に向けて議論した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が来られているので良いと思う。 ・外部からの意見も聞いている。 ・事業所が困っていることなどのなげかけがあれば良い。市役所、包括に知らせてほしい。 ・連絡帳に写真があり、よくわかって良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で地域の困りごとや一人暮らし、高齢世帯の情報を聞き取り、事業所で取り組める支援について、話し合う時間を設ける。また、その事例について、職員会議でも検討する。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>定期的にAEDの使い方、消火器の使い方、救命講習など防災訓練を計画し、地域の方へ回覧板で案内し、参加して頂けるようにする。</p>	<p>AEDの使い方については地域住民の協力を得て、地元の公民館をお借りして地域住民と共に講習会を開催することが出来た。 また、だんない通信を活用し、毎月回覧板でお知らせを案内したが、消火器の使い方についての住民参加はなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だんないの活動をもっと地域に知ってもらう為に、だんないの行事の時に地域の人と一緒に何かできたら良い ・救命講習は地域の方にも参加して頂けた。 ・だんないの行事に参加して頂く人の対象（若い人、高齢の人等）を変えたら良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、定期的に救命講習、消火器の使い方など防災訓練を事業所主催で企画し、地域の方々への参加を呼びかけ、交流をはかる。 ・自然災害のおそれがある時は、地域と連携して情報を共有する。 ・福祉避難所の地域にお知らせする。（その際、必ず市役所を通して頂く様に伝える。）